



# 桑の緑

小坂小学校 学校便り

令和3年7月20日  
文責：校長 江上 知男



朝のあいさつ運動

## 1学期の終業式を迎えました！

7月20日(火)に、1学期の終業式を実施しました。式の中で、子どもたちに次の3つの話をしました。

①この1学期で「嬉しかった」と思えることがありましたか？「できるようになった」と思えることがありましたか？  
**思い出した人も思い出せなかった人も、必ず頑張ったことはあります。**あとから、担任の先生から通知表をもらいます。そこにしっかり書いてあります。

- 最上級生になり、責任ある立場であることを理解し、それにふさわしい行動をしようとしていました。
- 様々な場面で友達が困っていると、優しく声をかけたり、さりげなく手伝ったりしていました。
- わからないことは「これはどういう意味ですか」などと質問し、主体的に取り組んでいました。

**自分で自分をしっかり褒めてください。そして、2学期はもっと頑張ったことを増やしてください。**

②1学期は、コロナで休校しなければならなくなりました。先生たちは「コロナが広まっていくのではないか」「みんなが不安な顔をして学校に来るのではないか」と、とても心配でした。そこで、5月10日の学校再開にこんなメッセージを送りました。覚えていますか。

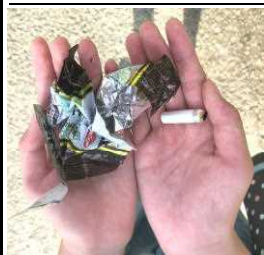
- 新型コロナウイルスは誰でも感染する可能性があります。感染した人は悪くありません。ですから、「コロナだ!」とか「誰が感染しとっ?」とか「なんで学校休んどると?」など、人を疑うような無責任な言葉や行動で、不安になっている人を傷つけることが絶対無いようにしてください。
- みなさんの優しさと思いやりで、コロナの中でも過ごしやすい小坂小学校を作ってください。

**学校再開後、みんながきちんと感染予防をしたおかげで、コロナが広まることはありませんでした。そして、「人を疑うような無責任な言葉や行動で、不安になっている人を傷つける行動」も一つもありませんでした。**心からお礼を言います。みなさんありがとう。そして、みなさんを誇りに思います。

③去年何度も話し合った「トイレの落書き」が、2回発見されました。先生たちは、とても傷つきました。そして、「なぜ落書きはいけないのか」を、分かっていない人がいることに悲しくなりました。**落書きには特別な理由があるのかも知れません。でも、その方法は絶対に間違いです。落書きは、「バレなければ何をしても良い」という考え方で、誰が書いたか分からないようにするから卑怯です。落書きで問題は解決しませんし、場合によっては、人を深く傷つけます。**伝えたいことがあるなら、落書きではなく別の方法を考えてください。人権学習で学んだことを思い出して、実行してください。

## 「着衣水泳」をしました

7月19日に、5・6年担任と福田先生が協力して「着衣水泳(服のまま水に入る)」を実施しました。毎年、全国各地に水の事故の犠牲になる子どもがいます。「もしも」に備えた訓練です。体験した子どもたちは、「服が濡れて体が動かない」「水が冷たく感じる」「服に空気を入れると浮きやすい」等々の感想を口にしていました。「おぼれる」経験をしないことが1番ですが…。



## 子どもに教えられること

…ある5年生は、登校中毎朝ゴミを拾ってきます。自分で「やる」と決め、その姿勢には強い信念を感じます。私は毎朝声をかけながら、崇高なものを感じさせられます。でも、時々拾ってこない日もあります。その時私は「ホッ」とします。誰かが勝手に捨てたゴミやたばこの吸い殻で、朝からその子の手が汚れなかったからです。そんな毎日になりますように…